



河内長野市高向・上原地区では、現在土地区画整理事業が計画されております。この地区は高向遺跡の範囲内であることから、河内長野市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターによる発掘調査を令和5年3月から進めています。

高向遺跡は、石川の西側の段丘上に位置し、北は国道170号線（外環状線）の上原交差点付近から南は高向小学校周辺まで広がります。過去の調査では古代から中世の建物跡や井戸・土坑・溝などの遺構や、旧石器時代から中世の各時代で石器や土器といった多くの遺物が見つっています。

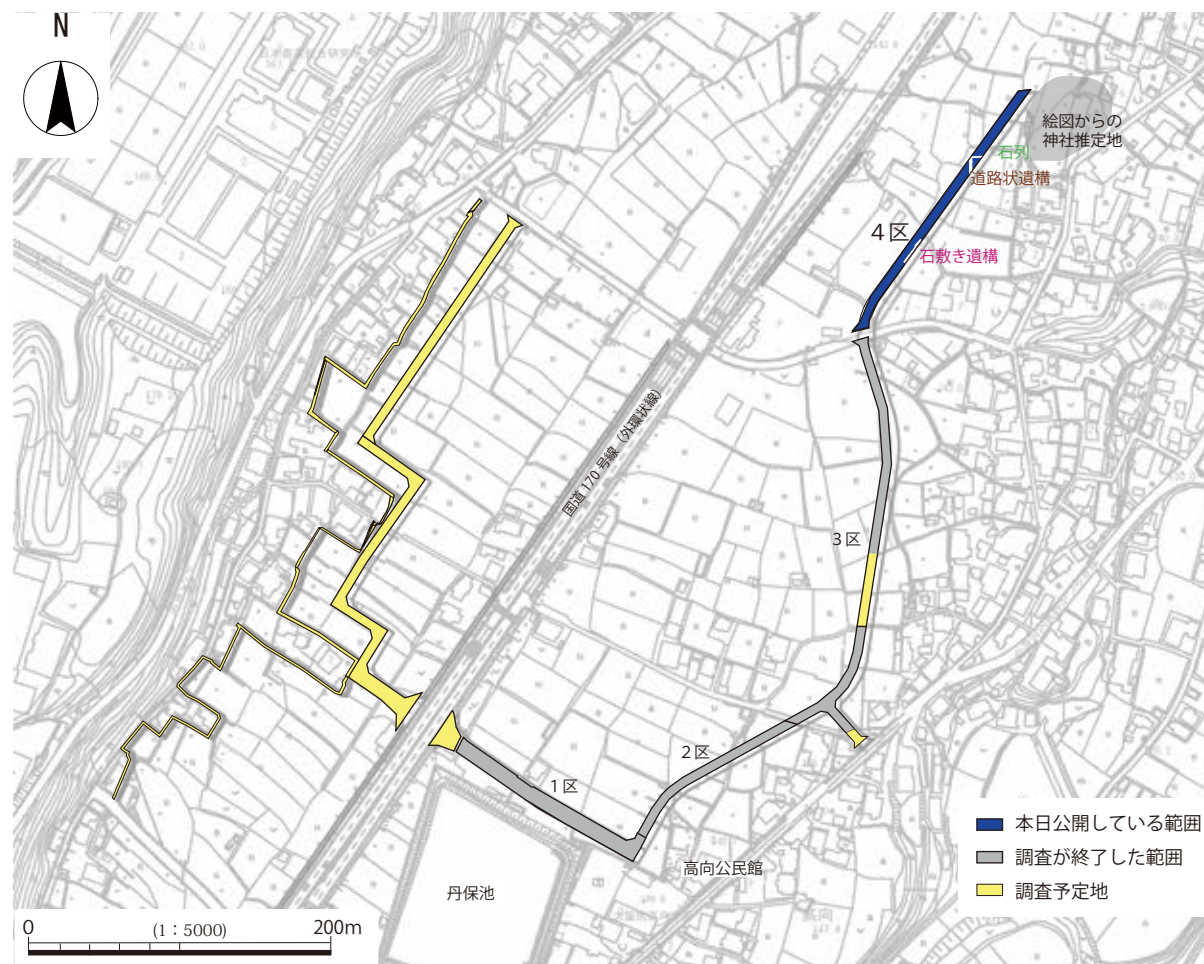


図1 調査地位置図

またこの地域は、中世に鳥羽天皇が建立した京都の安楽寿院の荘園であり、高向荘と呼ばれていました。このことから高向荘は、皇室を支える経済的基盤となる荘園のひとつでした。

今回の調査では、最も南側の1・2区を中心に古代の掘立柱建物や土坑・溝などの遺構、須恵器や土師器などの当時の人々が使用した土器などが見つかりました。現在調査を行っている4区では中世後期の石敷き遺構・道路状遺構・石列・土釜埋納遺構などが見つかりました。

石敷き遺構は4区中央東壁際に北東から南西方向に長さ18.5m、幅1.3～1.7m以上にわたって広がっています。遺構はさらに調査区東側に続いていると見られます。石敷きの間から中国磁器染付、瓦質土器、土師質土器が出土しました。この石敷き遺構から北東に55mの地点では道路状遺構や堀の跡と考えられる石列、地鎮と考えられる土釜埋納遺構が見つかりました。道路状遺構の規模は長さ9.6m、幅1.5mで南北方向に延び、これに直交するように東西方向に石列が並んでいました。この2つの遺構の交点付近に土釜埋納遺構が見つっています。

これらの遺構が何の施設に伴うものであるかは、これからさらに調査を進めていく中で解明していかなければなりません。江戸時代に作成された絵図（図2）によると調査地付近にかつて神社が存在していたことがわかりました。今回検出された遺構と関連性が高いと考えられ、神社の起源が中世にさかのぼる可能性も考えられます。



※左の図1と同程度の縮尺に合わせています。見比べてみて下さい

図2 河州錦部郡加賀田領並びに隣接領境界図
（河内長野市立図書館デジタルアーカイブより転載）

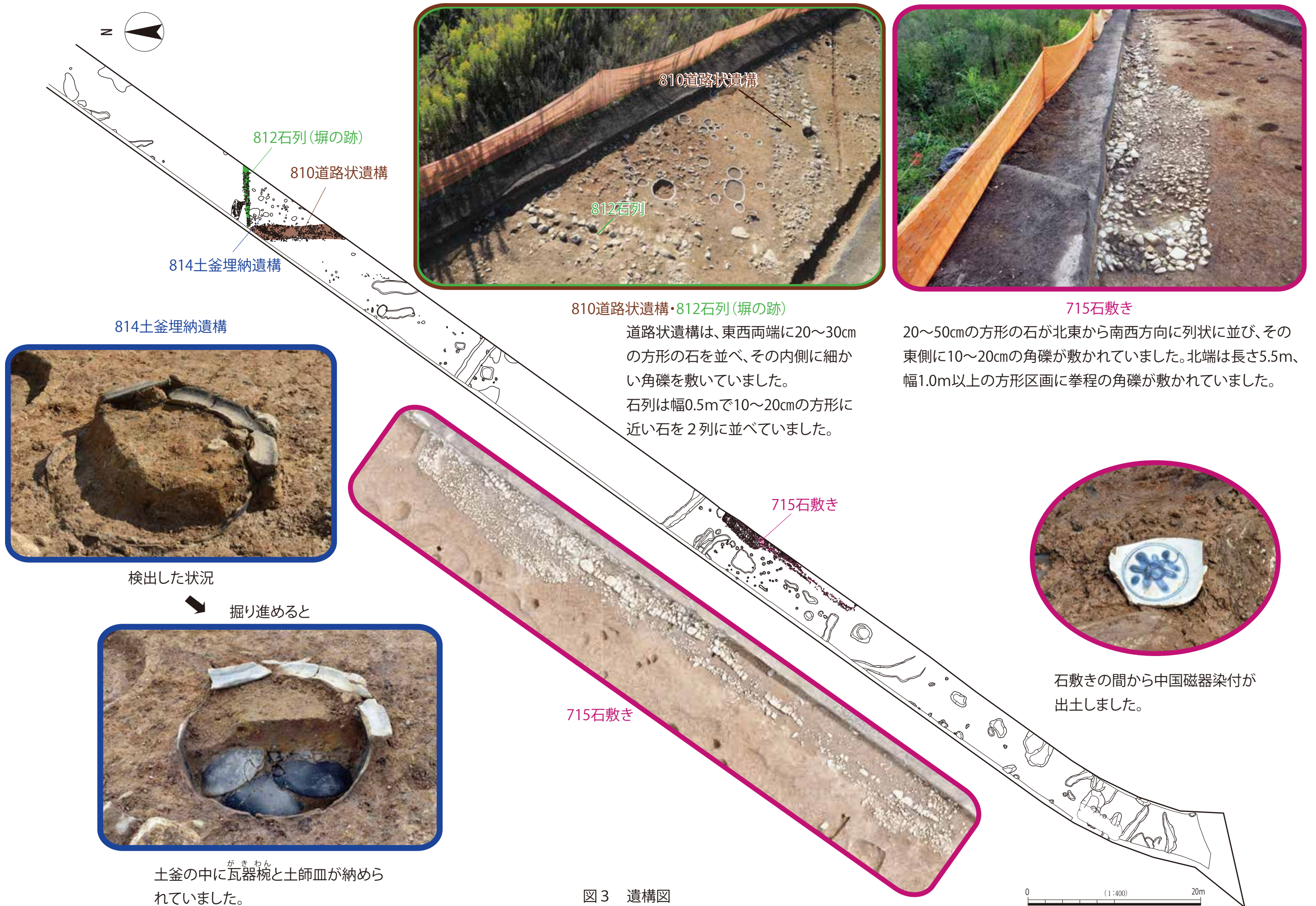


図3 遺構図